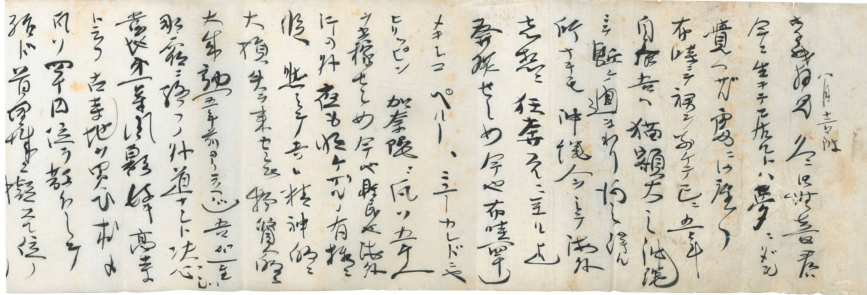


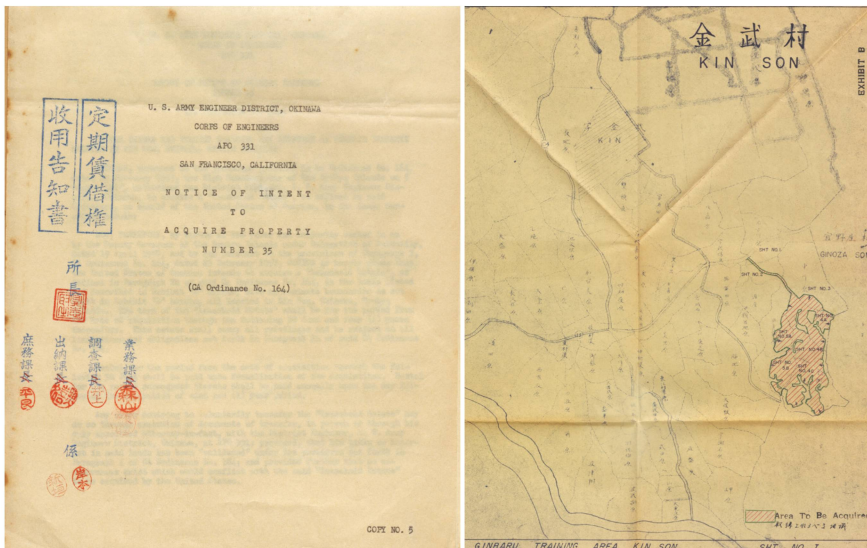
沖縄県公文書館 所蔵資料にみる 金武

—— ペリー来航から日本復帰まで ——



當山久三より平良新助あて書簡 1907年(明治40)9月12日付
湧川清栄文書[0000050298]

北米ニュー・メキシコ州にいた平良に移民の父・當山(並里区出身)が近況を伝えている。当時、當山は『沖縄移民新報』を個人で発刊し、悪徳移民あっせん業者を告発、また金融業界再編などを訴え、ますます意気盛んだった。



ギンバル(中川区)の収用告知書 1957年(昭和32)10月3日
琉球政府文書[R00049113B]

この収用告知書により、131,808坪も土地が軍用地として接收された。1953年(昭和28)4月公布の布令第109号「土地収用令」、1957年(昭和32)2月公布の布令第164号「米合衆国土地収用令」によって軍用地の新規接收が進んだ。



米軍空中写真 金武・並里・中川周辺
1946年(昭和21)2月22日
[16548 1RS M45 8AF VV/A016]

金武、並里、中川の農地や点在する集落の北側には米軍の金武飛行場が写る。1945年(昭和20)4月5日頃、米軍は金武を制圧し、同月下旬には池原一帯を接收して金武飛行場を完成、沖縄本島中南部や本土へと出撃した。沖縄戦後は実弾射撃の訓練場としても使用され、現在はキャンプ・ハンセンとなっている。



並里区での水道施設落成式に集まる人々
1962年(昭和37)11月17日
USCAR広報局写真資料8-4[34-50-1]

高等弁務官資金で建設した水道施設の落成式で祝辞を述べるキャラウェイ高等弁務官。並里農業協同組合側のステージで演舞が行われ、多くの住民が見物に訪れた。奥には大川理容館が写る。

映像のコーナー 金武に関する

01-06 金武掃討作戦 1945年6月6日 9分36秒 無声 モノクロ 米国国立公文書館所蔵(1フィート運動の会収集) [0000117204]

家々から出される住民/家の中を調べる兵士/"戦果"と思われる物が次々と出てくる/縄をなう機械の説明をする住民/興亜会館(現・金武公会堂)から追い出される住民/壕を調べ破壊するなどの映像がある。

『沖繩』 1940年[1936年] 約14分 有声 モノクロ 制作:東京日日新聞社 大阪毎日新聞社 [0000015498]

すでに戦時体制下にあった昭和10年代の沖繩の人々の生活や風物を描いた短編ドキュメンタリー。那覇港、県庁、首里、崇元寺、鉄道駅、中城、万座毛、今帰仁城、恩納岳、ジュリ馬行列、宴席の女性のカタカシラとハジチなどを紹介する。

『起ちあがる琉球』 1953年 37分 有声 モノクロ 制作:米国民政府民間情報教育部・琉球政府 [0000042281]

沖繩の産業、工芸を紹介しながら、「アメリカの理解ある援助」による島の復興を描く。また、過剰人口の唯一の解決策が、海外移民であると訴える。移民船出港、金武観音堂、當山久三碑、金武保養院、与那原大綱曳、壺屋、喜如嘉芭蕉布、那覇(政府庁舎、国際通り、珊瑚座)など。

※この他、公文書館で人気の映像(戦前の沖繩、移民、戦後史関係など)がご覧になれます。